



大改修案でサブアリーナの建設が可能とされている駐車場部分

新体育館建設 維持費の影響は

◆新体育館建設について

問 スポーツ関連予算費の、対一般会計比率の推移と、新体育館建設後の維持管理費による増額はバランスにどう影響するか。(中村)

答 平成21年度0.50%、22年度0.48%、23年度から25年度が0.49%。新体育館で想定する維持管理費は6千750万円となり、0.77%に上がる。県内類似都市では、0.41〜0.61%であるが、バランス的に突出するわけではないと考える。

問 市長が、建てる建てないの決断をしないから、職員は出口の見えない仕事をしなければならぬし、議会での議



高い性能を発揮する除雪用ホイールローダー

論は進まない。最たるコストだ。市長選で判断を示し、民意を問うべきだ。(中村)

答 判断する自信がない。市長選はトータルの選択で、単一事業の賛否ではない。

◆新体育館整備について
問 どの案に決まっても現体育館の改修は必要になる。床の張り替えなど最低限の改修は、すぐに実施できるよう準備すべきではないか。(柴田)

答 現体育館の大規模改修に決まった場合、内装等の改修も必要になる。床張り替えを先に施行することはできない。

防災・災害への 対応は

◆除雪ロータリー車について
問 トーザーと比較し、格段

に除雪が早く、排雪も同時にでき、市民の利便性、時間短縮による経費削減にもなるのでは。(中村)

答 大変高価な機材であるため、稼働しない場合のリスクがある。県で配備を検討しており、可能なら活用したい。

◆安心・安全な街づくりを
問 総務省事業「ICT街づくり推進事業」の提案事業が進められ、現在市内で調査・研究中の土中水分センサーと傾斜計・震動計を組み合わせ、土石流検知システムを開発中とのこと。この塩尻発のシステムをどの様に活用し、広島市・南木曾町の様な土石流から住民を守るのか、今から開発者・コンサルタント・庁内関係課で研究すべきと思うがどうか。(横沢)

答 大事なことで、その



土中水分センサー
観測点6ヵ所で観測中



塩尻消防署にある雨量計

◆災害発生時の対応について
問 先日、台風11号の豪雨により鈴鹿市等では、市内全域に避難指示が出された。本市でもそのような状況になった場合、どのような対応をされるのか。(柴田)

答 新しいガイドラインでは、避難というのは安全な箇所に身を置くということで、公共施設などに全員が集まるということだけではない。自宅の二階や山側でない部屋に移るなども避難であるとしている。

問 災害時の屋内避難施設の継続的な整備が必要と考えるがどうか。(柴田)

答 避難施設が少ない地域については、今後公共施設の再整備に当たって拡充していくという方向はもっている。